

昭和57年水害(王寺町久度地区)



水没したJR王寺駅

昭和57年8月2日
(読売新聞)

奈良県の意見

狭窄部



歴史・景観面が治水面でのニーズを上回るか否かについては、個々のケースで判断されるべき

提言

ダムのあり方(基本的な考え方)

➤ ダム建設

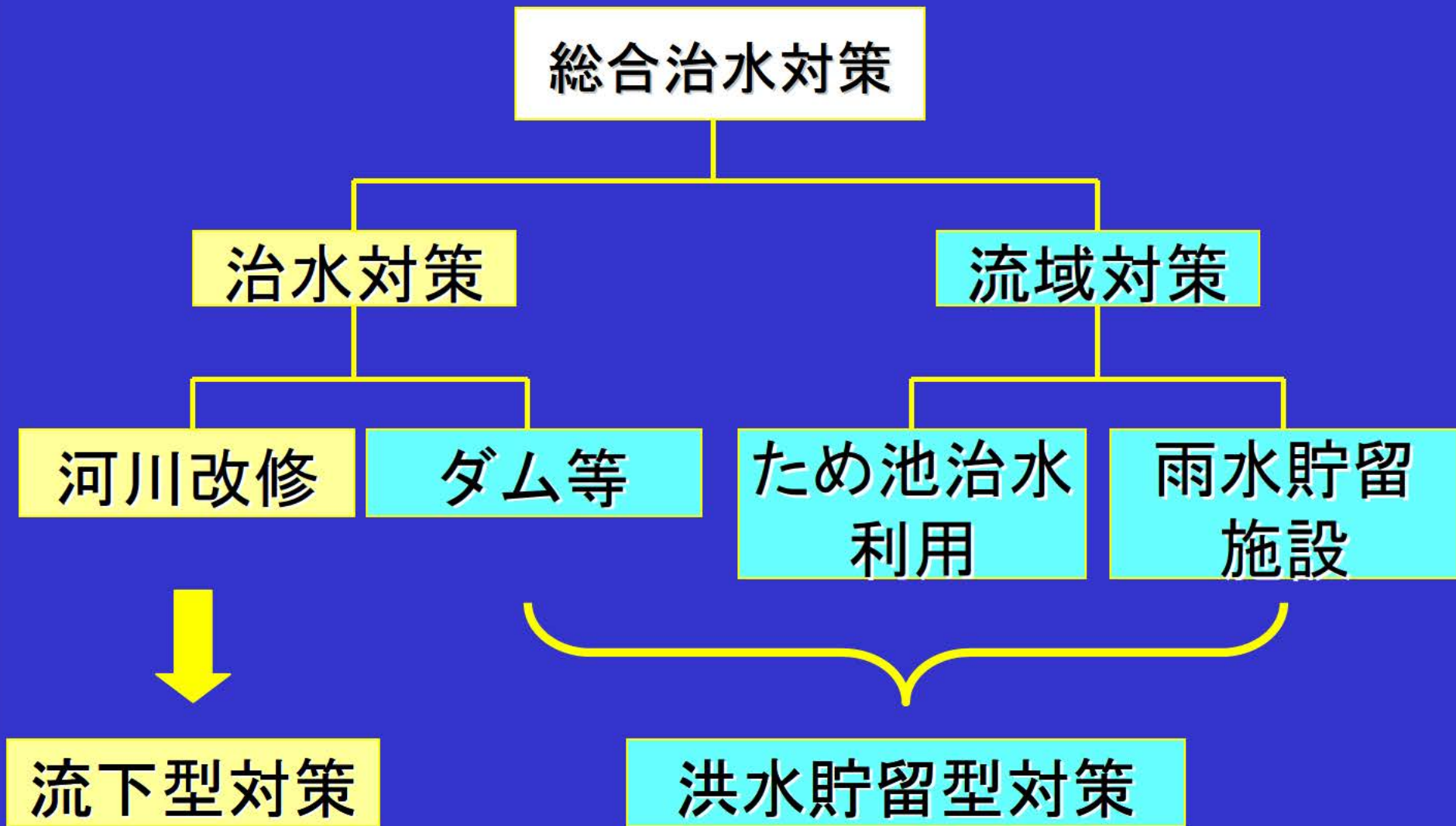
河川環境の視点

極力抑制

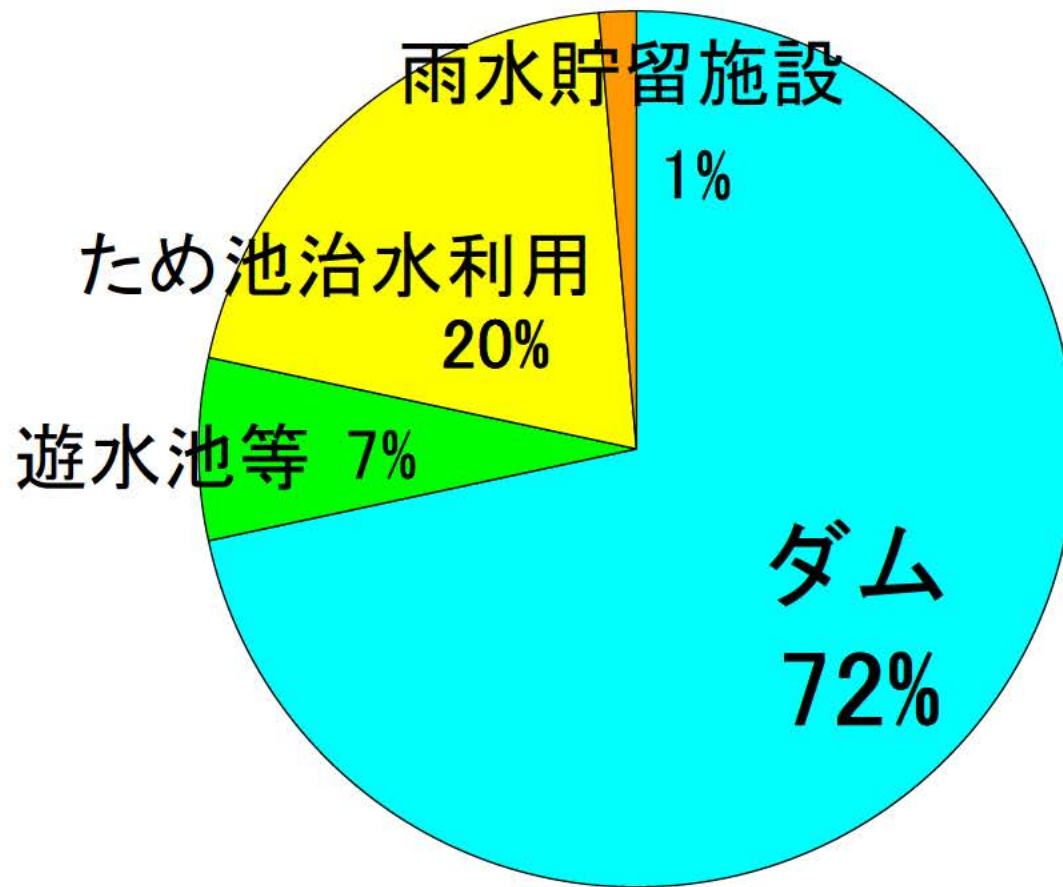
治水利水の視点
抜本的な再検討

新たな理念に沿っ

奈良県の場合

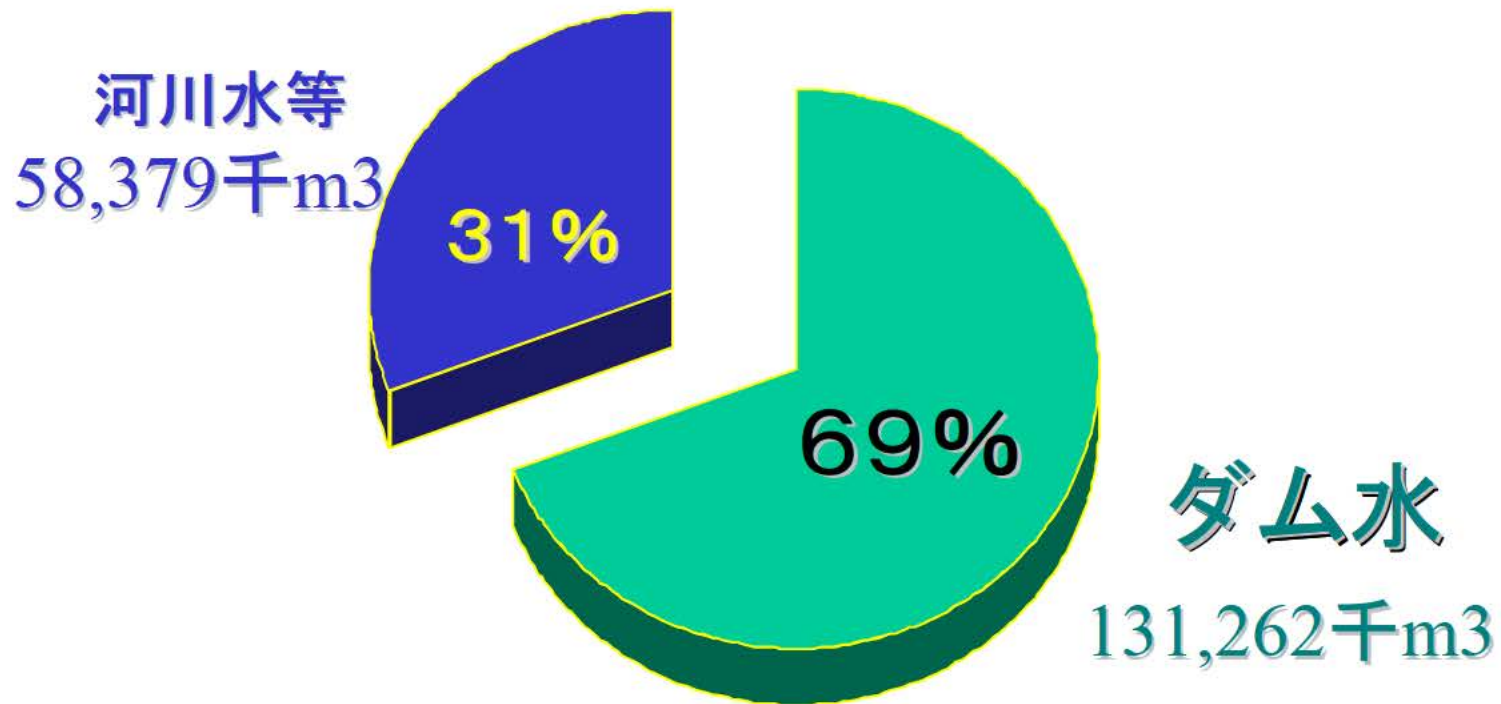


洪水貯留型対策の実施割合



奈良県の場合

上水道事業水源別年間実績取水量
(平成12年度)



奈良市他、10市18町1村(人口 約138万人)

県内の渇水状況



最近の渇水状況(奈良県)

平成2年、平成6年

平成12年、平成13年

平成14年

渇水状況を伝える新聞記事
サンケイ平成14年7月6日

奈良県の意見

- 洪水を防御するとともに、河川の流量が豊富な時期に水を貯留し、不足する時に供給するダムは、有効な河川整備手法の一つ
- ダムが有効か否かは、個々のケースで判断されるべき

総括意見

1. 狭窄部の開削・ダム建設



整備手法の一つとして比較検討の対象に加えるべきもの

2. 狭窄部の開削、ダムのあり方、「水害の連鎖」



淀川直轄管理区間固有の課題として整理すべきもの